

受領No.1563

## 社会課題解決を目指す学際的な共同研究の 内部者によるラボラトリー・スタディーズ —学問分野の垣根を越えた融合とは何か?

代表研究者 片岡 良美 北海道大学大学院理学院 博士後期課程  
共同研究者 中尾 世治 京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科  
助教



### What Is “Integration” across Multiple Disciplines: Laboratory Studies by Insiders on a Solution-Oriented Interdisciplinary Research Project

Representative Yoshimi Kataoka, Graduate School of Science, Hokkaido University, PhD Student  
Collaborator Seiji Nakao, Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University, Assistant Professor

#### 研究概要

複雑化する社会課題解決のために、自然科学と人文・社会科学にまたがる学際研究の重要性がますます高まっている。他方で、分野を超えた協働は容易ではないと認識され、科学を対象とした社会科学研究ではその困難と原因について論じられてきた。しかし、実際の共同研究の遂行は、当事者による暗黙知や経験則によってその方法が模索されるに留まっている。本研究では、自然科学、人文・社会科学の研究者を含む、学際的な共同研究プロジェクトにおける異分野間の（ディス）コミュニケーションがいかにして生じ、どのような意味で学問分野を超えた協働・融合がなされたのかを明らかにする。ラボラトリー・スタディーズは、実験室などの研究の現場で調査者（外部者）が参与観察を行ない、そこで何が起きているかを理解するアプローチである。これに対して、本研究では、代表研究者および共同研究者が、当事者（内部者）として参与した研究プロジェクトを対象とし、論文生産のような学術研究の特徴的な営みだけでなく、日常的に行なわれる会議、作成する文書なども分析する。異分野研究者間で何がどう語られたのか、民族誌的な記述と分析を行なうことで、学際研究の可能性を具体的に検証し、社会課題解決に結びつく研究実践の新たな方法論を提示する。